



芝樋ノ爪小だより

<https://shibahinotsume.edumap.jp>

川口市芝樋ノ爪 2-10-48 Tel.048-266-5265

学 校 だ よ り
令 和 6 年 5 月
川口市立芝樋ノ爪小学校
児 童 数 : 2 7 5 名

世に出る前に…

校長 吉田 栄

新たな年度を迎え、早くも一か月が経過しました。さわやかな初夏の風に包まれて芽吹く若葉は活力に満ち溢れ、まるですくすくと成長する児童の姿そのものです。5月「皐月」。命の息吹に満ちた木々の緑は目に眩しく、新緑が香り立つ好季節を迎えました。

児童は新たな学校、新たな学年、そして新たな学級での生活を軌道に乗せ、目標達成に向け様々な活動に意欲的に取り組んでおります。毎日、成長を続ける児童です。日々の一步一步が1年後、2年後の自分の姿を決めることは言うまでもありません。児童は自分の力でできることを増やししながら、それらを支えとして、新たなことへの挑戦を続けています。その姿はたいへん頼もしく、学年が上がり一回り大きくなったように感じます。

「世に出る前に衣をまとえ」…。この言葉は、私が大学生のとき、お世話になったある方から教えていただいた言葉です。「世に出る」前…すなわち「社会的に自立し、社会の形成者として社会貢献を実現する立場となる」前に、「衣」をまとうこと…。この場合の「衣」とは、社会に出てからの自分自身の支えとなる、身に付けた学力や体力、規範意識や思いやりの心をはじめとする道徳律、望ましい人間性や社会性、他者と協力し新たな共生社会を創造する力等と解釈することができます。

これら児童が身に付けるべき力の根底にあるものとは、いったい何でしょう。それは、自尊感情であると考えます。自尊感情は、「自分を価値ある人間として尊重する感情」と定義されます。端的に言うと、自尊感情は、「自信」に近い意味の言葉です。自尊感情を高めることは、自分を大切な存在であることととらえるとともに、自分に自信をもつことに他なりません。自分は大切な存在であることを自覚し、自分に自信があって初めて、自分の意志に基づく行動ができるのだと考えます。人はその行動に対する見通しがもてるほど、その行動を為し遂げようと努力する傾向にあると言われます。「行動に対する見通し」とはすなわち「為し遂げる自信」であり、自信をもつことでその行動を為し遂げる可能性が高くなると言うことができます。自尊感情が身に付けるべき力の根底にあるという所以は、夢や目標を達成するためには、実現の可能性を自分自身で認知し挑戦を続けることが重要であり、その姿こそが自尊感情の高まった姿であり、自分の大切な未来を主体的に切り拓き、力強く生き抜く姿そのものであると考えます。

さらに、自分を大切な存在であると考えられるからこそ、他者を尊重することができると考えます。自己を否定している状態では他者にとって都合のいいことのみを優先し、他者のことを自分のこととしてとらえることができないと考えるからです。他者のことを思うのであれば他者の姿に対等な自分を重ねることで他者の現状を自分のこととしてとらえ、自分のためではなく他者のためを考えることが必要なのです。

本校は目指す学校像として、本年度も「児童の自尊感情を高める学校（夢をはぐくみ、児童のよさや可能性を引き出し伸ばす芝樋ノ爪小）」を掲げました。未来を生きる児童は限りない可能性に満ち溢れています。児童には、自分のよいところや自分の特性を認識し、そのような自分に自信をもち、自分の可能性を信じ、さらに大きく伸びてほしいと思いません。そして、自分の未来に大きな夢を描いてほしいと願っています。そのためには、学校にもできることがあるはずで、児童自身が認識していないのであれば、まずはその児童のもつよさを引き出すこと。引き出した児童のよさや可能性を児童に認識させるとともに、さらに大きく伸ばすこと。そうした教師の働きかけこそが、児童の自尊感情を高めることに直結すると確信しています。

「世に出る前に、衣をまとえ」…。近い未来、必ず「世に出る」児童に、自尊感情という「衣」をまとわせてあげたいと切に願います。学校が一丸となり、目指す学校像「児童の自尊感情を高める学校」の具現化に力を尽くしてまいります。